

都道府県・ 指定都市番号	14	都道府県・ 指定都市名	神奈川県	研究課題番号・校種名	1 高等学校
				教科名	国語
研究課題	学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究 ○ 古典を含む我が国の言語文化に対する興味・関心を高めるための学習・指導方法及び学習評価の工夫改善についての研究				
指定年度	平成 28 年度～平成 29 年度				
ふりがな 学校名（生徒数）	か な がわけんりつふじさわそうごうこうとうがっこう 神奈川県立藤沢総合高等学校（832）				
所在地（電話番号）	神奈川県藤沢市長後 1909（0466-45-5200）				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	<a href="http://www.fujisawasogo-ih.pen-kanagawa.ed.jp/">http://www.fujisawasogo-ih.pen-kanagawa.ed.jp/</a>				
研究のキーワード	学習の見通しと振り返り 伝統的な言語文化 観点「関心・意欲・態度」 古典 総合学科				
研究結果のポイント	○ 我が国の言語文化に対する興味・関心を高めるためには、特定の方法によらず、各能力の育成を図る授業を通じて行うことが有効な方法であり、特に見通しと振り返りが重要である。 ○ 「興味・関心」は「関心・意欲・態度」の観点と関連があり、各能力の伸長を図ることで、「興味・関心」を高めることが可能である。 ○ 総合学科では多くの教科・科目及び行事があり、国語科の科目を中心として、年間指導計画に言語文化についての学びを組み入れることで、効果的な指導を行うことができる。				

1 研究主題等

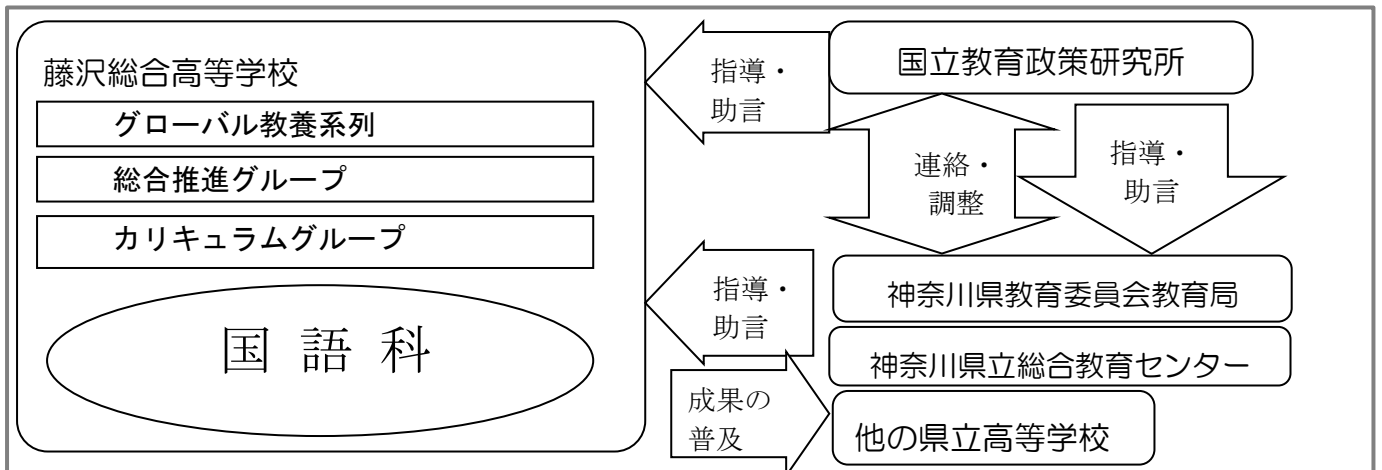
(1) 研究主題

総合学科における、我が国の言語文化に対する興味・関心を高める取組についての研究

(2) 研究主題設定の理由

本校は総合学科高校として、生徒が将来の職業選択を視野に入れて進路や生き方について考え、卒業時に多様な進路選択ができるように指導している。生徒が、自分の進路や生き方を考える際には、我が国の言語文化への興味・関心及びそれに基づいて身に付けた言語文化の特質が、生徒の多様な可能性を生み出す共通基盤として役立つと考える。総合学科に学ぶ本校の生徒が、国語総合を中心とする国語科の科目で、我が国の言語文化の中にある価値観や知恵を多角的なアプローチによって学び、自らその活動の意義を確認することで、卒業後にも生涯にわたって言語文化に親しむ態度を身に付けることができると考える。そのための学習方法及び多様な学習活動を通して身に付けた能力を、適切に評価する方法を検証したく研究主題を設定した。

(3) 研究体制



#### (4) 1年間の主な取組

平成 28 年度	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 生徒アンケート実施<ul style="list-style-type: none"><li>・ 本校生徒が身に付けるべき「伝統的な言語文化と国語の特質」に係る資質・能力に対する意識を確認するため、生徒向けアンケートを実施し、研究開始時の学習状況や意識を把握した。又、年度終わりに学習状況や意識の変化を確認した。</li></ul></li><li>○ 単元研究<ul style="list-style-type: none"><li>・ 研究主題に沿った単元の指導計画を検討し、国語科における言語文化を主題とした指導例や、言語活動例を調査した。</li><li>・ 「伝統的な言語文化と国語の特質」を生徒が効果的に身に付けるための言語活動の在り方と評価方法を検討し、多くの実践例を蓄積し分析した。</li></ul></li><li>○ 生徒による授業評価<ul style="list-style-type: none"><li>・ 前期及び後期に「生徒による授業評価」の実施及び分析を行った。</li><li>・ 授業評価による成果と課題を明確化し、指導の改善を図った。</li></ul></li><li>○ 公開研究授業の実施<ul style="list-style-type: none"><li>・ 単元研究に基づく公開研究授業を実施し、言語活動の指導例について研究協議した。</li></ul></li><li>○ 国語科以外の各教科等における「言語文化に関する指導」の調査<ul style="list-style-type: none"><li>・ 各教科での言語文化に関する指導、その際の効果的な言語活動例、実施時期等を調査し、他教科等での「言語文化」指導の在り方について検討した。</li></ul></li><li>○ 次年度の年間指導計画作成<ul style="list-style-type: none"><li>・ 1年次の研究成果に基づいて、次年度の「国語総合」及び「古典A」年間指導計画を作成し、他教科等の年間指導計画においても言語文化に関する指導を明確にし、計画の中に位置づけた。</li></ul></li><li>○ 県実施「生徒学力調査」<ul style="list-style-type: none"><li>・ 2年次生徒全員に対して県実施の「生徒学力調査」を行った。</li></ul></li><li>○ 教育課程編成<ul style="list-style-type: none"><li>・ 現在1年次生のみ国語総合を必修科目として設置しているが、平成29年度生の教育課程の改善を図るため、2・3年次でも国語科科目を学校必修科目として設置した。</li></ul></li><li>○ 研究1年間のまとめ<ul style="list-style-type: none"><li>・ 1年間の研究を振り返り、結果と次年度の取組について検討した。</li></ul></li></ul>
----------------	---

## 2 研究内容及び具体的な研究活動

### (1) 研究内容

#### ア 1年次の「国語総合」、2・3年次の「古典A」における研究

- 生徒が古典を学ぶ意義を認識するための授業方法について
  - ・ 言語文化を学ぶことへの意欲を喚起するために、年間計画に沿って、生徒が学ぶ意義を理解し、継承・発展させる立場であることを理解できる活動と評価方法を検討し実践した。
- 目標の実現に対して有効な学習活動とそれを踏まえた評価方法について
  - ・ 「我が国の言語文化に対する興味・関心を高める」ための具体的な学習活動として、学習指導要領における「読むこと」の指導事項や言語活動例を基に学習活動を設定し、それを評価するための評価方法について研究を進めた。
- 学習の見通しと振り返りの方法について
  - ・ 年間指導計画に基づき、身に付けさせたい力と言語活動を単元開始時に明確にし、学習の見通しを持たせた。又単元の終わりには授業を通してどんな力が身に付いたのか振り返りをし、生徒の力の確実な育成と定着を図った。

#### イ 国語科以外の授業における研究

- 他教科や総合的な学習の時間における言語文化に関する単元の計画について
  - ・ 国語科での授業を基にして、さまざまな教科・科目で、我が国の言語文化又は文化への興味・関心を高めるための学習方法、及びその評価方法を検討した。

#### ウ 1, 2の研究内容の連携についての検討

- 総合学科における国語科と他教科との効果的な連携の在り方についての検討
  - ・ 国語科とその他の教科等の連携を意識した教科横断的な年間指導計画の在り方を検討した。

## (2) 具体的な研究活動

### ア 1年次の「国語総合」、2・3年次の「古典A」における研究

- 生徒が古典を学ぶ意義を認識するための授業方法について
  - ・ 生徒アンケートを実施したところ、今まで「古典」の授業に対して「学ぶ必要性」を感じていない生徒や、「嫌い」と思う生徒が多く、特に文法や逐語訳作業に対して、特に苦手意識を持つ生徒が多いということが分かったので、言語活動や評価方法について検討した。
  - ・ 年間指導計画に、「古典を学ぶ意義」についての単元を設定し、学ぶ意義について生徒が実際に考えてから、作品の読解等に入った。
- 目標の実現に有効な学習活動とそれを踏まえた評価方法について
  - ・ 「読むこと」の授業では、指導要領の指導事項や言語活動例を基にして17の学習活動を設定した。文法の学習や本文の逐語訳という学習活動だけでなく、さまざまな学習活動を通して、生徒の関心・意欲を高められるか、それを適切に評価できるか検証した。
  - ・ 「読むこと」を指導する授業のあとに、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の授業を適切に配置し、「読むこと」の授業で学んだ古典の内容を活用することで、生徒が古典を身近に感じられるか検証した。
  - ・ 生徒アンケートから、音読に対して関心を持つ生徒が多いことが分かったので、年間を通じて教科書収録作品を問わず、古典作品の音読を重視した。授業の最初の時間に音読の指導をしたり、音読についてのテストを実施し、音読による学習活動の成果を検証した。
  - ・ 公開研究授業では、言語文化に対する興味・関心を高めるという目的に対する手立てとして有効か、又進めている研究内容が目的に沿っており効果的な方法であるか協議をした。
  - ・ 定期テストだけでなく、各単元で授業の活動や成果物に対して評価をした。特に「興味・関心」を高めることについては、「関心・意欲・態度」の評価に通じるものがあり、各単元で最も重点を置く学習内容に対して関心を持ち、自ら学ぼうとする意欲等を身に付けているか評価することで、いわゆる「興味・関心」が高まったか判断できるのではないかと考え、生徒の振り返りや成果物を分析することによって検討した。
- 学習の見通しと振り返りの方法について
  - ・ 生徒が単元を通してどのような力が付いたのかということ意識しやすい環境を作るため、年間指導計画に基づき単元ごとに、身に付けさせたい力と単元で行われる言語活動を明示するワークシートを作成し年間を通して実施した。単元開始時に学習の見通しを持つことができ、同じシートに授業を通してどんな力が身に付いたのか振り返りを記入するようにして、身に付けたい力の育成と定着を生徒自身がメタ認知できるよう図った。
  - ・ 学習活動には伝統的な文化を体験する授業として能を実演したり、狩衣を着たりするという体験活動を設定した。体験活動の場合には、通常の授業以上に活動の意味を考え、振り返りをすることが重要となるので、一回の体験として終わらせずに、単元として設定して年間指導計画の中に位置づけた。

### イ 国語科以外の授業における研究

- 他教科や総合的な学習の時間における言語文化に関する単元の計画について
  - ・ 国語科の「伝統的な言語文化に関する事項」を他の教科・科目の指導項目に置き換えたときには、どのような指導事項と評価規準に設定できるのか検討をした。
  - ・ 他の教科・科目では授業でどのような目的に対してどのような言語活動を行っているか調査し、伝統的な言語文化の興味・関心を高める適切な方法を検討した。
  - ・ 言語文化に関する単元を設定する際、各教科・科目の特性に基づいて、有効な学習活動と評価方法を検討した。

### ウ 1, 2の研究内容の連携についての検討

- カリキュラムマネジメントの視点を持ち、総合学科における国語科と他教科との効果的な連携の在り方についての研究
  - ・ 1年次の国語総合を中心として他教科・科目と連携し、教科横断的な学習活動をどの時期に行うことが効果的か検討した。
  - ・ 総合学科における行事の中で、特に2年次以降で言語文化を意識できる行事を検討し、特別活動の一つとして設定した。

### 3 研究の結果と今後の取組

#### (1) 研究の結果

- 言語文化を学ぶ学習活動について
  - ・ 古典の学習に対して興味・関心を持つ生徒の割合が低く、同時に学習に対する意義や意味を見いだせない生徒が多いので、古典学習における特定の学習活動だけを行うのではなく、様々な言語活動を通して学ぶことが、興味・関心を高めることに対して効果的であると、振り返りの分析から分かった。
  - ・ 言語文化の魅力を感じるためには、活動自体の面白さではなく、作品が持っている魅力を感じることが必要であり、そのための活動としては、学習時に極力原文に触れることが良く、特に音読が有効であることが、生徒の意識調査や活動の観察からわかった。
  - ・ 「伝統的な言語文化に関する事項」は、一般的に「読むこと」の指導を通して行われることが多いが、学んだことを活用するために「話すこと・聞くこと」「書くこと」の授業の中でも指導し、それを年間指導計画の中で適切に位置づけることが効果的であると、生徒の振り返りの分析及び年間指導計画の検討から判断した。
  - ・ 各単元で見通しと振り返りをしやすい環境を整えることで、生徒自身が単元を通して身に付けたい能力を意識することができ、言語文化に対する興味・関心を高めることに資するということが、昨年までの国語総合・古典Aの授業と比較・分析して分かった。
- 古典に対する「興味・関心」の高まりについて
  - ・ 年度終わりの生徒アンケートで「興味・関心」を計ったところ、向上が見られた。
  - ・ 「関心・意欲・態度」の観点とは、各単元で設定した能力と密接な関連があるため、設定規準に到達することで評価でき、この観点が高まることで「興味・関心」も高まるか検証した。
  - ・ 古典分野における「読むこと」の能力は、現代文分野以上に「知識・理解」と密接に関わっており、「知識・理解」の学習が「読むこと」の能力を伸長させ、その結果「興味・関心」も高まるか検討した。
- 総合学科における国語科以外の他教科・科目及び行事との連携について
  - ・ 国語以外の各教科・科目にも「我が国の言語文化」に相当する内容があり、多くの教科・科目で実施することが可能であることが分かった。その際は国語科の科目を中心として単元設定時期を検討することが特に有効である。
  - ・ 特定の教科以外でも、行事を活用することも可能であると分かった。

#### (2) 今後の取組

##### ア 国語科の科目に関わる取組

- 「我が国の言語文化に対する興味・関心」を高める学習活動の方法及び評価について
  - ・ 「興味・関心」を高めることと、土台となる各能力の育成との関わりについて、指導と評価の一体化の観点から、設定した活動や評価規準が適切であるか検証する。
  - ・ 年間指導計画について再検討して、年間を通して有効と思われる指導事項や言語活動の配置の時期を検証する。
- 言語文化を学ぶことで身に付く資質・能力について
  - ・ 言語活動を通して、現代文分野で付けられる能力、古典分野で身に付けられる能力を明確にできるよう研究を進める。
- 見通しと振り返りの検証
  - ・ 現在の方法を改善し、より生徒がメタ認知をしやすい学習方法を検討する。

##### イ 国語科以外の総合学科における教科・科目及び行事についての研究

- 総合学科における他教科・科目との連携
  - ・ 検討した学習内容が、総合学科における他教科・科目で効果的に展開できるか検証する。
  - ・ 教科横断的な授業の展開方法について研究を進める。
- 総合学科としての取組
  - ・ 総合学科で重視される、将来の職業選択を視野に入れた学習活動や、生涯に渡って学び続ける態度を、様々な体験を通して身につける学習活動の中に、課題研究等を通して伝統的な言語文化を組み入れられるかを検証する。